

現代アジアにおける 華僑・華人ネットワークの新展開

清水 純・潘宏立・庄国土 編

風響社



現代アジアにおける

華僑・華人ネットワークの
新展開

清水純・潘宏立・庄国土編

常州大学図書館蔵書

風響社

書庫

環球圖書文具公司
Universe Bookstore

81-B BAYARD ST.

TEL: (212) 593-1989

IA
ORP.
ERY

CERY

編者紹介

清水純

日本大学経済学部 教授（編集責任者）。1956 年生まれ。東京大学社会学研究科博士課程修了、学術博士。文化人類学、中国・台湾研究。

潘宏立

京都文教大学人間学部 教授（共同編集者）。1960 年生まれ。総合研究大学院大学博士課程修了、文学博士。文化人類学、中国研究。

庄国土

華僑大学講座教授・厦門大学南洋研究院 教授・院長（共同編集者）。1952 年生まれ。厦門大学大学院修了、歴史学博士。国際政治学、歴史学、華僑・華人研究。

現代アジアにおける華僑・華人ネットワークの新展開

2014 年 2 月 10 日 印刷

2014 年 2 月 20 日 発行

清水 純
編者 潘 宏 立
庄 国 土

発行者 石 井 雅

発行所 株式会社 風響社

東京都北区田端 4-14-9 (〒114-0014)

TEL 03(3828)9249 振替 00110-0-553554

印刷 モリモト印刷

● 目次

現代アジアにおける華僑・華人ネットワークの新展開

●第一部 グローバル化する華僑・華人ネットワークと華商ビジネス——その歴史的背景と現在

アジア東部の初期華人社団形成における主要な紐帯	庄国土（石村明子訳）	21
-------------------------------	------------	----

一 はじめに	21
二 地縁——華人社団の主要な紐帯	22
三 神縁——初期華人社団の誕生を促した重要な要因	25
四 秘密結社——初期華人社団の主な形式	28
五 中華ナショナルリズム——華人社団を大規模に発展させる原動力	32
六 結び	34

家郷連係とビジネス・ネットワーク

——清末民初における潮汕商人と故郷の相互関係	蔡志祥（林松濤訳）	39
------------------------------	-----------	----

一 序論	39
二 宗族と地方	45
三 現地社会への貢献	47
四 商人の家郷連係の解釈	54

中国の華僑政策——一九五〇年代の試行と教訓	63
曾根康雄	

一 はじめに	63
二 中華人民共和国建国当初の政治経済状況	64
三 一九五〇年代前半の華僑政策	67
四 華僑政策の修正と転換	73
五 一九五〇年代の華僑政策の教訓	80
六 おわりに	84
香港・台湾・東南アジア華人資本による中国への投資	89
崔晨	

一 はじめに	89
二 中国経済発展と香港・台湾及び東南アジア華人資本とのかかわり	90
三 香港 華人企業の中国大陸投資への窓口	98
四 中国投資における華商ネットワークの活用	103
五 中国企業の海外進出における華商ネットワークへの参入	110
六 おわりに	113

台湾と東南アジアを結ぶ華僑・華人の社団組織	119
清水純	

一 序論	119
------	-----

二	台湾における東南アジア帰僑	122
三	東南アジア各国の留台同窓会	139
四	東南アジアの台商会	146
五	社団の変化とその背景	156
六	結び	160

日本における新たな華僑組織と華僑 城田 千枝子 171

一	序論	171
二	日本における新たな華僑組織	173
三	今日の在日華僑と華僑組織、 ビジネス・ネットワーク、アイデンティティ——個人事例から	181
四	おわりに	193

華僑の「クワンシ」と社団の再生過程——同窓会ネットワークを中心に 李 鎮 榮 197

一	序論	197
二	本論	203
三	結論——一元論を超えて	237

インドシナ三国における華僑・華人社会の現状 諏訪 一幸 245

一 はじめに 245

二 改革開放期の華僑・華人政策 247

三 中国系の人々と商会 253

四 華人学校における中国語教育の現場 268

五 おわりに 273

マレーシアにおける中国新移民 廖大珂（奈倉京子訳） 281

一 はじめに 281

二 マレーシアを訪れる中国人に対する政策 282

三 外国人に発給するビザの種類 283

四 マレーシアにおける中国人労働者 288

五 マレーシアに不法滞在する中国女性 294

六 マレーシアにおける中国人留学生 296

七 婚姻や投資によって移民する中国人 301

● 第二部 東南アジアにおける社團ネットワークの新たな動向

中比国交樹立後のフィリピン華人社団の新たな変化および原籍地との関係

——晋江籍社團を例として…………… 庄国土・陳君（玉置充子・石村明子訳）

313

一 はじめに 313

二 晋江籍フィリピン華人社団の一般的状況と特徴 313

三 晋江籍フィリピン華人社団の発展と変化 319

四 一九七〇～九〇年代における晋江籍フィリピン華人社団と原籍地との関係 324

五 二一世紀——フィリピン華人社団と中比関係への新たな貢献 330

六 結語 332

シンガポールにおける中国新移民社團試論…………… 劉文正（林松涛訳）

337

一 シンガポールにおける中国新移民社團成立の背景 337

二 中国新移民社團の設立と発展 340

三 中国新移民社團の趣旨、組織構成および財源 345

四 中国新移民社團の社会的機能 354

五 新移民社團と伝統華人社団の相違と連係 362

六 結び 366

一九八〇年代以降のタイ華人社団の新発展……………	潘少紅(王艷梅訳)	373
--------------------------	-----------	-----

一 はじめに	373
--------	-----

二 過去三〇年のタイ華人社団の発展	374
-------------------	-----

三 過去三〇年のタイ華人社団の変化	383
-------------------	-----

四 おわりに——社会変遷とタイ華人社団の発展との相互作用	396
------------------------------	-----

ポスト・スハルト時代におけるインドネシア華人社団の新たな発展	
--------------------------------	--

……………丁麗興(玉置充子訳)	419
-----------------	-----

一 はじめに	419
--------	-----

二 一九九八年以前のインドネシア華人社団の歴史的変遷	419
----------------------------	-----

三 一九九八年以降のインドネシア華人社団の発展における新たな特徴	425
----------------------------------	-----

四 新たな華人社団の機能の変化	429
-----------------	-----

五 インドネシア華人社団の主な課題	440
-------------------	-----

六 インドネシア華人社団の発展の趨勢	443
--------------------	-----

一九八〇年代以降のマレーシア華人社団の新たな発展……………鄭達(玉置充子訳)	457
--	-----

一 マレーシア華人社団の概要	457
----------------	-----

二 マレーシア華人社団の新たな発展	461
-------------------	-----

三 社団の発展における業縁社団 465

四 中国とマレーシアとの関係における業縁社団の地位と役割 470

五 社団の発展における問題点 475

一九七〇年代中期以降のビルマ(ミャンマー)華人社団の発展と変化

陳丙先(玉置充子訳)

491

一 はじめに 491

二 ビルマにおける華人政策の調整 492

三 華人社団の数の変化 495

四 華人社団の機能の変化 497

五 ミャンマー華人社団の構造変化 502

六 ミャンマー華人社団の発展の見通し 507

七 まとめ 512

一九八〇年代以降の東南アジアにおける泉州籍地縁型社団の変遷

林聯華(殷娟訳)

517

一 はじめに 517

二 東南アジアにおける泉州籍同郷社団の現況 517

写真・図表一覧

577

三	東南アジアにおける泉州籍同郷社団の発展と変化	520
四	東南アジア泉州籍同郷社団と原籍地との関係	530
五	おわりに	539
一九八〇年代以降の広西籍の華人社団……………		
一	はじめに	545
二	主な広西籍華僑・華人社団の分布とその特徴	546
三	広西同郷社団発展の歴史的段階	558
四	広西同郷社団の主な機能	562
五	広西同郷社団による祖国と広西への貢献	566
六	結び	571

梁炳猛（高天亮訳）

545

はじめに

清水 純

経済の国際化とグローバル化が進んだ今日の世界のなかで、華僑・華人が展開するネットワークを通じた活動は、それぞれの居住国の経済発展とともに新たな展開をみせるようになった。居住国内で、あるいは国境を越えて、中国系の住民同士が連係関係を作り出す特有のネットワーク組織の存在は歴史的にも知られてきたところであり、その機能も注目されてきた。中国大陸の故郷とのつながりや、血縁のつながり、宗教など多様な関係性を利用した連係と相互扶助は、かつては華僑・華人の移住先での生活にとって重要な意味を持っていたが、これに加えて近年では、現地化した華人たちや新来の華僑たちの経済活動が活発化するとともに、これらの組織が居住国の社会や経済にも大きな影響を与えるようになってきたのである。

本書は、華僑・華人が集中的に分布する東アジア・東南アジア社会において、彼らのネットワークの新たな展開を主題とするものである。この地域は、近年急速な経済発展を遂げ、居住国の国籍を取得した華人たちも現地社会における一定の位置づけを獲得して、活動領域を広げつつある。一方、中国の政治経済政策の変化により、改革開放以後の中国からアジアへの新たな移民の流出が顕著に見られるようになって、この地域の新華僑の人口は増加の一途をたどっている。このような新しい局面を迎えて、華僑・華人のネットワークも活性化する傾向にある。本書

に収められた各論考では、まず華僑・華人固有のネットワークを通じた連係関係の本質について振り返り、それが東アジア・東南アジア各地の社会における歴史的経緯のもとでどのように活性化するに至ったか、華僑・華人はどのようににネットワークを利用し経済活動につなげているか、またはつなげようとしているかという現状を把握しようとしている。華僑・華人の居住国における位置づけは、それぞれの国での中国系移民の歴史や、国内・国際情勢の影響などにより異なるものであり、それらの事情も含めて、本書に収められた論考の多くは二〇世紀後半の政治経済の流れを跡付けつつ、とりわけ一九七〇年代・八〇年代における変化の諸要因をふまえ、今日に至るアジア各地での華僑・華人ネットワークの新たな局面の展開へと目を向けている。

日本ではこれまでの華僑のネットワーク研究は、どちらかというと歴史的な関心が高く、同時代の状況はこれまであまり分析の対象にされてこなかった。しかしグローバル化が進み、国境を越えた経済活動が緊密さとスピード感を増している現状では、日本を含むアジア社会において華僑・華人のネットワークが果たす役割は次第に大きなものになり、アジア各地における日本人の経済活動に際しても、華僑・華人との連携や協調関係は重要性を増している。経済活動に欠かせないパートナーであり隣人でもある中国系の人々について知ることは、さらなるアジア理解と相互関係の深化をもたらしものである。華僑・華人のビジネス・ネットワークについて、現代アジアの経済発展とともに活性化している最新の状況を概観したいと考えたのが、この研究を始めるそもそものきっかけであった。

このような問題関心は、二〇〇八年～二〇一〇年度に日本大学経済学部の中・アジア研究センタープロジェクトとして行われた国際共同研究「現代アジア社会における華僑・華人のネットワーク」として具体的な形をとることになった。共同研究は、学際的な研究を目指してさまざまな分野（国際経済学、国際経営学、文化人類学、歴史学、国際政治学など）の研究者の協力を得ながら進めることになった。プロジェクトメンバーには、日本人のほか、中国・香港・韓国人研究者が参加し、そのなかには日本の大学・研究機関に在職している外国籍の研究者たちも含んでい

る。また、華僑研究の世界的なセンターの一つである厦門大学南洋研究院とは、院長である庄国土教授とのご縁があつて提携することになった。そして国籍も専門分野も、華僑・華人と向き合う立場も異なる研究者たちが、それぞれの視点に立って三年間にわたる現地調査と文献研究を行った「代表・清水純 共同研究参加者・吉原和男、庄国土（中国）、蔡志祥（香港）、李鎮榮（日本在住韓国人）、潘宏立（日本在住中国人）、曾根康雄、崔晨（日本在住中国人）、玉置充子、研究協力者・廖大珂（中国）」。

日本大学のプロジェクト研究と並行して、二〇一〇年度平和中島財団アジア重点学術研究助成を受けて行った共同研究「東アジア・東南アジアにおける華僑・華人と「社団」組織・ビジネス・ネットワークの新たな展開とその背景」【代表・清水純 共同研究者・庄国土、李鎮榮、潘宏立、崔晨、玉置充子、城田千枝子】も本研究の進展に役立った。さらに、庄国土教授を代表者とする中国社会科学基金重点項目「国際華人移民現状、趨勢和居住国政策」プロジェクトとも連携し、研究交流を行った。中国・アジア研究センタープロジェクトの成果報告としては、二〇一〇年十二月に日本大学で国際シンポジウムが開かれ、共同研究者に加え厦門大学の連携研究者も参加して、二日間にわたる研究報告が行われた。

本書に収録した論文は、主として日本大学のプロジェクトとシンポジウムに参加したメンバー、平和中島財団のプロジェクトメンバーが中心となつて執筆したものである。執筆者達の研究対象は、東アジア・東南アジアの広い地域に及んでいるため、各国における華僑・華人のネットワークや、それを生み出す社団（非営利の民間組織である社会団体）についてはかなり網羅的に把握することができた。しかし、インドシナ半島の最新の事情については手薄であつたことから、本書の編集にあたり、諏訪一幸静岡県立大学教授にも新たに執筆者として加わっていただいた。諏訪教授の参加によってこれまで調査に入りにくかつた地域の最新の情報が補充され、東アジア・東南アジアのほぼ全域が俯瞰できる内容となつた。

本書に収められた論文はさまざまな専門分野からの研究であり、アプローチの仕方はそれぞれ異なっている。このような多様な視点からの分析という編集方針は本書における一つの試みでもあるが、こうした多角的なアプローチによって、研究対象となる華僑・華人のネットワーク組織を、より一層動きと立体感のあるものとして提示することができると編者たちは考えている。華僑・華人研究が学際的な研究に対してつねに開かれた性質を持つことから見ても、このような試みはそれなりの意義をもつであろう。

本書の編集にあたっては、個別には華僑・華人のビジネス・ネットワーク構築の過程や、グローバル化する社團の機能に関心を寄せながら、全体としては、現代アジアに展開される華僑・華人ネットワークに関わる基本的な知識を確認し、幅広く各方面から現状を把握することをめざしている。本書が出発点となつて、現在進行形としての華僑・華人ネットワークにさらに多くの関心が集まり、各分野における研究が進展していくことに期待する次第である。

ところで、本研究に関連する著作としては、すでに厦門大学出版社から二〇一〇年に論文集『近30年来東亞華僑華人社団的新變化』が出版されている。この論文集は、一足先にスタートした中国の国家重点研究の成果であり、また日本大学のプロジェクトの共同研究とも部分的に重なるものでもある。刊行時においては、日本側の研究プロジェクトがまだ進行中であつたが、日本大学プロジェクトの共同研究者の一部（潘宏立・崔晨・清水純）が成果論文を寄稿した。また、厦門大学出身の若手研究者たち（日本大学プロジェクトの連携研究者チームを兼ねる）の研究成果も掲載されている。これらの論文の多くは、若干の加筆と改訂を加え、本書に収録した。

本書の刊行は、日本大学経済学部中国アジア研究センターの成果出版であると同時に、厦門大学南洋研究院との連携によるもので、成果論文を日中それぞれの言語で発表し合うことを目指した共同企画という側面を持つ。プロジェクトを始めるにあたり、研究成果を双方の研究者が共有可能な形で公開しようと庄国土教授と話し合ったこと

が、このような形で二冊の論文集の刊行につながったのである。とはいえ、日本大学の共同研究と廈門大学の国家重点研究は若干異なる方向性を持ち、論文集もそれぞれの主題に合わせて編集されている。執筆者の顔ぶれもある程度異なり、二冊の論文集は互いに独自性を備えている。いふなればこれらは、複数の共同研究の少し異なる組み合わせからできた複合的成果物なのである。

本書の構成は第一部と第二部に分かれている。第一部は、主として日本大学のプロジェクトと平和中島財団プロジェクトの共同研究者による成果論文から構成され、東アジアおよび東南アジア地域を対象として、ネットワーク形成の歴史的経緯、ネットワークを利用する華僑・華人の意識、ネットワークの経済的効用、中国との関係をめぐる華僑・華人の最近の動向と社團の再編成などを、それぞれ歴史、経済、政治、社会、文化などの側面から考察している。また、第二部は庄教授の率いる南洋研究院出身の若手研究者チームによる報告から構成され、東南アジア華僑・華人の社團の新設と再編成の現状分析に焦点があてられている。これらの論文では、社團の刊行物や新聞・雑誌・インターネット等を情報源として活用し、社團に関するデータ、特に現存の社團の種類と名称及びその活動内容や、社團相互の交流や連絡関係に関する資料が丹念に集められている。インターネットによる情報通信技術の発達、華僑・華人のグローバルな連絡や情報交換をさらに加速させる要因となり、各社團のホームページにはそうした連絡や情報交換の様子が数多く紹介されている。インターネットを通じた資料の収集もこれからは重要な調査手段となることを、本書に収められた諸論文が示していると言えよう。

* * *

本書を編集するにあたっては、多くの方々のご協力とご尽力を得た。プロジェクトメンバーとして参加された慶応大学の吉原和男教授は、プロジェクトからシンポジウムに至るまでの研究会活動を通じてお力添えをいただいた。